

水辺のふるさと かつしか 夏号

2019.3-5

自然環境レポーター(通)信



写真のタイトル：ドクダミ

撮影場所：水元3丁目

写真提供：佐々木 定治さん

目次

- 1 55種の動植物調査結果 P 2
- 2 夏号イチオシの生きもの! P 3
- 3 自由レポート P 4 ~ 20
- 4 季節の写真集 P 21 ~ 23
- 5 魚からの便り P 24 ~ 27
- 6 環境課からのお知らせ P 28 ~ 29



編集担当のひとこと

こんにちは。4月より環境課自然環境係に配属されました丸山です。

この3ヶ月で色々な事を体験しましたので、少しご報告をさせていただきます。

4月には、新ハ水路で胴長を着て投網の練習をしました。陸上では出来て(?)いたのに、実際に水の中に入ると思うように広がりませんでした。

5月には、カラスが巣をつくり威嚇しているとのことで、現場へ向かいました。早速、7階の廊下から下を見下ろすとヒナを発見! 親ガラスが威嚇をしながら手すりに止まり目が合ってしまいました(+_+;) 現場に行く時は、ヘルメットと傘は必要!!と再認識しました。

そして、6月に入り小学校でヤゴ取りをするため、網の貸し出しをしたところ、返却の際に赤トンボとギンヤンマのヤゴを1匹ずついただきました。赤トンボは、土、日に羽化して飛び立ちました。現在は、ギンヤンマを育て観察中です。元気に飛び立ってほしいです。

これからも、身近な自然に触れ合いながら、観察していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

丸山

55種の動植物 調査結果(3月~5月)

【調査区1】 計3種

〈植物〉 **ナガミヒナゲシ**、
シロツメクサ、
イモカタバミ

【調査区2】 計21種

〈鳥類〉 コアジサシ、ツバメ、コガモ、ツグミ、コサギ、
カワセミ、シジュウカラ
〈昆虫〉 クロアゲハ、ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、**ナガミヒナゲシ**、
シロツメクサ、スズメノエンドウ、
イモカタバミ、オオバコ、カントウタンポポ
〈爬虫類〉 ミシシippアカミミガメ、ウシガエル
〈底生動物〉 ベンケイガニ

【調査区3】 計19種

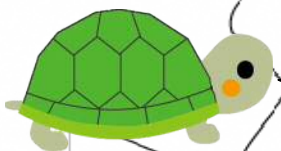
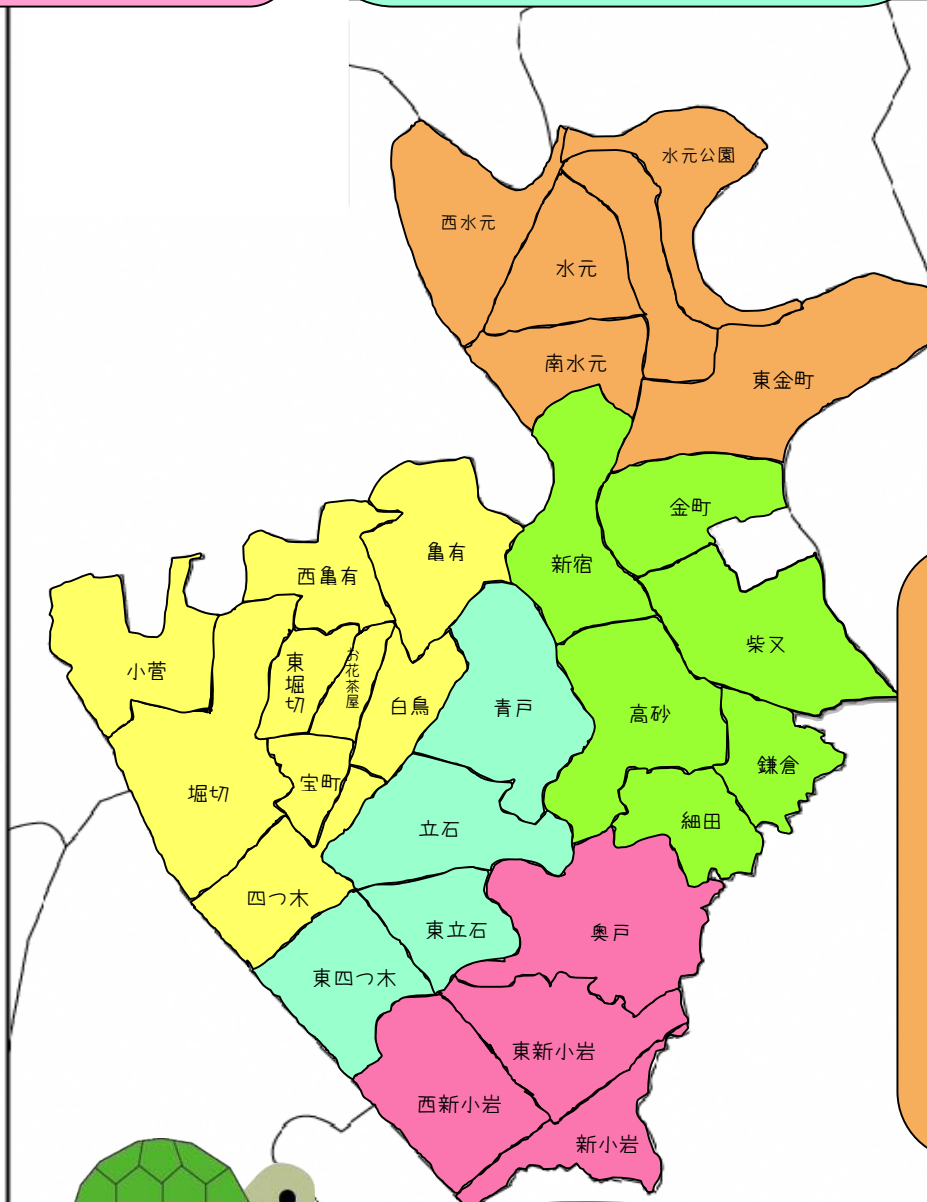
〈鳥類〉 コアジサシ、ツバメ、
ツグミ、コサギ、カワセミ、
シジュウカラ
〈昆虫〉 クロアゲハ、ナミアゲハ、
ツマグロヒョウモン
〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、
ナガミヒナゲシ、**シロツメクサ**、
スズメノエンドウ、**イモカタバミ**、
カントウタンポポ、ツユクサ
〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**
〈底生動物〉 ベンケイガニ

【調査区4】 計7種

〈鳥類〉 ツバメ、ツグミ、ウグイス、
シジュウカラ
〈植物〉 スギナ、カントウタンポポ
〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**

【調査区5】 計25種

〈鳥類〉 コアジサシ、ツバメ、オオヨシキリ、
コガモ、ツグミ、ウグイス、コサギ、
カワセミ、コゲラ、シジュウカラ
〈昆虫〉 クロアゲハ、ナミアゲハ、
ツマグロヒョウモン、アカボシゴマダラ
〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、**ナガミヒナゲシ**、
シロツメクサ、スズメノエンドウ、
イモカタバミ、セリ、オオバコ
カントウタンポポ、ツユクサ、
〈爬虫類〉 ニホンカナヘビ



赤字は外来種だよ

夏号イチオシの生きものの！

アリアケスマシレ

アリアケスマシレは、スマシレ属の植物のひとつ。スマシレによく似たものだが、白い花をつける。ただし花色には変異が多い。

アリアケスマシレは、根出葉だけを出し、立ち上がる茎を持たないスマシレで、その姿、葉の形、花の形など、非常にスマシレに似ている。ただし花色が白っぽく、その点でスマシレとははっきり区別できる。同様に白い花を着けるものにシロスミレがあるが、本種の方が人里近くによく見られ、はるかに普通である。

名前は有明に由来し、花の色の変異にちなむといわれる。

Wikipedia



上記の写真は、4月に石鍋壽一さんが区北東部で撮影されたアリアケスマシレです。私はまだ見たことがありませんが、これからは、道端のお花にも目を向けて歩いてみます♪

平成最後の春景色



弥生桜そう

今年の春の訪れほど気まぐれだった年があっただろうか…。今年
は正月から厳冬に襲われ尚更春が待たれたが、昔の冬の寒さはこん
なものではなかったと振り返った。朝は霜柱が立ち、天水桶には厚
い氷が張っていた。今ではそんな日々を覚えている人は少なくなっ
ている。それは地球温暖化もあり、暖房の利いた部屋でぬくぬくと
日々を送っているのもあるだろう……。

三月は春を思わせる日と真冬のような日が交差した。その間じっ
と春を待っていた人たちは桜の開花が待たれた。それらを想い、い
つ頃咲くのだろう……と楽しみにしていた。寒空に桜の蕾がまだ
黒々としていても、それらが咲きほこる姿を思うと胸が膨らむ。そ
して次の日は寒風が吹き荒れると、まだまだ先の日だと思ったりし
た……。とにかくあのころ、桜の開花に一喜一憂だった。

彼岸の入りに開花宣言がなされた。一輪が咲くと都内の桜はたち
まち満開になった。その間も寒暖は繰り返した。それ故に桜の花は
二十日間ほども咲き続けた。私たちの熱望に応えてくれたのだ。そ
の間雨に降られなかったから、今年の観桜は最高であったとって
好いと思う。今、日本の桜の美しさは世界中に知れわたっているよ
うで外国からの観光客も多いし、これからますます増えていくこと
だろう。

それに来年は東京オリンピックがいよいよ開催されるから美しい

風景ばかりでなく日本の文化を **PR** する好い機会だろう。

桜が終わると草木は次々に開花してゆく。朝、私は目覚めれば外に出て花を観る。椿は赤も白も咲揃い、清楚なシャガは純白の絨毯を敷き詰めたようで見事である。ハナニラはかわいい、増えすぎて困るほどの野芥子は蕾をつけて順番を待っている。歌に歌われた二輪草は二輪咲く、ひっそりと。

令和元年 5 月 1 日

梅の実が実るころ



弥生さくら草

改元が行われ年号が令和になりました。初めのうちは慣れないままにまごついたけれど、今では身についたようです。長い昭和の後の平成の時代は変革や災害も多かったけれど過ぎてみれば懐かしいことが多い。

今年は異常に気温が変動して六月なのに真夏のような日もあり、また昨日今日のあまりの低温に既に片づけてある暖房器を持ち出した。我慢しても耐えられない陽気なのである。外は紫陽花が満開で梅雨空に美しく映えている。近頃は梅の実を意識しないでいたら、昨日は緑色の梅の実が数個見つかった。最近家庭で作る梅干しは塩分が多くて敬遠気味だ。我が家でも市販の塩分のごく少ないものを利用している。それでも折角実った実をそのままに出来ないと、物干し竿を持ち出して揺らして落とす。庭に赤紫蘇が植えてあるから自家製の梅干しが少量だが出来るはずである。

ジャムの空瓶に塩をまぶしてそれを卓上に置いた。時々見て転がせば黴が生えることはないだろう。水が上がったら赤紫蘇を塩で揉んで漬ければ梅干しが出来上がり。(赤紫蘇は毎年芽こぼれで嫌という程芽が出る。紫蘇ジュースにも使用可能だ) こういう筋書きで試みた。完全食品の梅干しは塩分が強いから嫌われがちであるが自家製は何とも嬉しいのだ。。。。。

タチアオイも毎日花が咲き翌日には萎んでいく。先日は蛍袋が鈴なりに咲いた。郷愁のある花でそれを見ると幼かったあの頃を思う。毎朝この花を探すのが夏休みの頃の慣例だった。

令和1年6月15日

タイトル	春のみらくさ	町名	荒川土手	調査区	2-8
------	--------	----	------	-----	-----



4/7 ナナホシテントウの
幼虫たちは、アブラムシの
ごちそう食べ放題？
そして同じ植物には、すでに
成虫となつた個体も同居して
アブラムシは、どんどん食べ
られています
1本の植物にこの幼虫
たちが、ウジャウジャと
群れています。



5/1 ナナホシテントウの
幼虫たちは、成虫となり、
でも皆、まだ食事に
続いている様です

氏名 高柳みどり

タイトル	春のみちくさ	町名	西新小岩-3 中川土手	調査区	1-4
------	--------	----	----------------	-----	-----



4/4 土手には 子だ草も多
くはえていない中、ただスクッと
立ち咲いているのは
マツバウンラン。(松葉海蘭)



町名…東四つ木 中川右岸緑道

調査区…2-8

5/3

緑道のテラス側、ベンチ屋根のある

所では、ツキスキインドウ(突抜忍冬)が、にぎやかに、

目を引いています。ツリガネカズラとまちがえそうでしたか、

葉を確認しました。

氏名	鷺田 秀和	町名	新小岩	調査区	1
----	-------	----	-----	-----	---

タイトル 『川辺のふれあい方』

春先、新小岩で外国人が現れるスポットがあります。

それは沼(´ω´)

3月を過ぎ、暖くなるとアメリカザリガニが活動を始めます。

旺盛に雑食し、たくさんの子どもを産み、5月頃までにはその子たちも体長2~3cmほどに成長します。

それを狙って、サギやウシガエルがウハウハとエサにありつく、という具合なのですが…

狙うのはこれら動物だけではない、というわけです。



毎週末、いや休日であればいつでも、こうした風景が見られます。

彼らにインタビューしたところ、食べるのだそう。

逆に「日本人は食べないネ」と言われました(;^o^A

しかも、その獲り方がハンパありません。

まるで魚(´ー´)。



←これは
生け簀

『生態系を荒らす』との理由で駆除されることのあるアメリカザリガニですが、休日ごとにこの漁りでは、逆に心配になってしまいます。

→もちろんフツーにザリガニ採りをしている家族もいます。

(採って数匹 ;^o^)



ここ、葛飾あらかわ水辺公園では、いろんな人たちに出会います。

その接し方も人それぞれです。

氏名	鷺田 秀和	町名	新小岩	調査区	1
----	-------	----	-----	-----	---

タイトル 『汽水域』

荒川です。葛飾でいえば、この河に接する南端の街が、私の住む新小岩(´o`)ノ
ここからあと少しで東京湾へたどりつく、といった位置カンケイになります。

はてさて、その河川敷をランニングします。土と草の自然クッションは足の関節にやさしいので、たまのにわかランナーにはいいコースです(´o`)ノ

そうこうしながら走っていると、ひとりポツンと釣り人が。背中を丸めて忙しそうにしています。竿が大きくしなってる！

思わず声をかけます。

見ると体長40cmはあろうかという白銀の魚がかかっているではありませんか。これは引きが激しいのもうなづけます。

この魚、聞くとフッコという名前だそーで。

形からスズキかと思いましたが、いえいえ、その子どもをこう
いう呼び名で言うとのこと。

調べてみると、フッコは、出世魚スズキの成長過程の中でも、
人間でいえば青年期、卒業したての社会人といったところのよう
です。

いわゆるバス系の魚ですから、当たりが強く、さそ釣りは楽し
めたことでしょう。

さらにこの方にお話を聞くと、他にも釣れる魚があるそう。
それはアカエイ。さらにさらに、ウナギがとれるそう(´ω`)



この辺りは東京湾から潮が逆流してきており、そこから本来は向こうにいる魚がやってくるのだとか。
で、(比重の関係なのだろうと思いますが)海水は川の下側を流れるため、エイといった底を泳ぐ生物
がやってくるというわけです。

(フッコは食欲旺盛なバス系ですから、エサを求めて遡上したもよう。さらにそれを狙って、釣り人が
現れる、と。)

そうした摂理は全く知りもしなかったので、荒川は改めて豊かなのだと感じたランニングのひとつ
でした。まさか新小岩のあたりまで汽水域が伸びているとは思いませんでした。

ちなみにこの方、ここで釣った魚はいつも、家でさばいて食べるそうです(´Q`)

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

平成31年3月21日

中国の日本の段ボール古紙爆買い

中国が段ボール古紙を日本から爆買いしていて、値段が1.5倍になっているそうです。爆買いする理由は大気汚染と関係しているようです。

特に PM2.5*などを発生させないために質の高い古紙を日本から輸入しているようです。紙を作る時に出る、紙にならない方の物質を燃料として紙の材料を煮たり乾燥させたりする方法があり（リサイクルとして良いとされている）、この時に出る浮遊粒子状物質が特に他の重油・石炭などの他の燃料に比べ細かく PM2.5発生の原因になるそうです。またその成分も紙をつくる時の薬液が含まれていて特殊なようです。

日本の古紙に目を付けた中国は自国のために手を打っていて目の付け所が良かったと思います。それだけ困っていたということでもあるのですが・・・。

日本の段ボール古紙に新たな価値が見いだされたのですが、日本で紙を使う製品が更なる値上がりをしたり、日本の製紙用の木材の輸入が増えて世界から悪者あつかいされたりするといやだなあと思っています。

粒子状物質の大気汚染で困っている国はけっこうあるようで、中国、韓国、タイ、インドなど近隣アジアでも困っているようです。

- * PM2.5 : 2.5マイクロメートル以下の浮遊粒子状物質。米国の調査などにより大気中濃度と死亡率の間に相関が見いだされた物質で、肺がんリスクの増加、ぜん息などの増悪因子。

参考文献

タイトル 「公害防止管理者【大気関係】完全合格教本」
 発行所 株式会社 新星出版社 著者 関根 嘉香
 2012年2月25日 初版発行

平成31年4月20日

葛飾区で見たことのあるスマレ類

区内で花色の違うスマレの仲間を近い範囲で見つけた。日本のすみれは種類が多く、プロでも見分けるのが大変だと聞いていたので、図書館でスマレの図鑑を借りて調べることにした。

日本にはすみれ属は細かく品種まで見ると220種ありスマレの豊富な国だそうだ。

スマレ類全部の写真はないが、直近にみた写真と分類（多分あっているレベル）を記載したいと思う。



写真1. アリアケスマレ

写真2. スマレ

写真1. アリアケスマレ：少し湿った場所に生えシロスマレに似るためよく間違えられる。花色は変化が多い。スマレとは花の色で見分ける。濃紫のものも紫条が目立つ。葉の幅は先端までほぼ一定。

写真2. スマレ：花は紫が多いが、淡いものなど変化に富む。アリアケスマレとは距が長いこと、花が葉より高く咲くことで区別。よく似るノジスマレは花に青みがある。スマレの花の色は青みがからない紫で中心部の白色が目立たない。

他に区内で見たことがあるのはタチツボスマレ、ニョイスミレで、タチツボスマレは花が紫で葉が丸い。ニョイスミレも葉が丸いがこちらは明らかに小さく花は白い。

近隣の他の区などで見たことのある葛飾区内でも生えている可能性があると思われるスマレ類はヒメスマレ、ノジスマレである。

似かよったスマレとしては、スマレとアリアケスマレとノジスマレや、タチツボスマレとニオイタチツボスマレ、コスミレとアカネスマレなどがあるそうだ。

*参考文献

タイトル 「スマレハンドブック」

発行所 株式会社 文一総合出版 著者 山田 隆彦

2010年3月10日 初版第一刷発行

葛飾で昔から大事にされている木

水元公園の近くの神社に樹齢300年を超えている木があるそうです。タブノキというそうで樹形はもこもこの形で太い木になります。アボカドの仲間、比較的海に近い地域に生え、スタジイというどんぐりが成る木と共に植物学上でタブノキ・スタジイ林という地域をつくるそうです。

海に比較的近い地域に生えるので葛飾には元々生えていた木のようです。

わざわざ取り上げたのは、このタブノキが水元公園の近くだけでなく近所の神社でも最近切られるまで大事にされていたからです。昔、植えられたそうで、ということは植木屋さんと共に地域の住民がこの元の植生のこの木を知っていてわざわざ選んだということです。

それだけの知識と教養があったということで、現在は専門家や一部の人が知るだけで、あまりかえりみられることもなく、私も近くに植わってなければ知らなかった木です。

元の植生の木を選んで、当時の人が神聖としていた神社の境内に植えたということは自然を大事にしていたことがうかがえます。そして水元公園の近くの木は樹齢300年を超えるそうで、もし植えられたものとする、長い間受け継がれてきたことかもしれません。

昔は自然が残っていて今より知りやすかったかも知れませんが、昔の人の自然への造詣の深さには驚かされました。

氏名：藤並 剛 町名：亀有 調査区：3

3月10日(日)午後3時頃、天気は曇り(風なし)、気温14度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、ヒヨドリ、オナガ(3)を見つけた。昆虫は、アリ(今季初)を見つけた。植物は、ツクシ(スギナ)(3)、イモカタバミ、オッタチカタバミ、ノゲシ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、カラスノエンドウ、ナズナ、タネツケバナ、ハコベ、オランダミミナグサ、スズメノカタビラ、ニワゼキショウを見つけた。

3月17日(日)午後1時から2時30分、天気は晴れ(風なし)、気温18度くらい。水元公園のグリーンプラザ周辺。今日はコゲラの会の観察会で、山本先生をお迎えしての観察だった。野鳥は、オオバン、ジョウビタキ、シジュウカラ、カワウ、コゲラなどを見つけた。昆虫は、ビワコカイガラモドキを見つけた。植物は、コゴメイヌノフグリ、オオイヌノフグリ、ナズナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、シロバナタンポポ、タネツケバナ、カラスノエンドウ、セイヨウタンポポ、ツクシ、フラサバソウ、オオジシバリを見つけた。暖かい日が続いて、コブシの花が咲き、アキニレの葉の芽も出てきていた。

3月23日(土)午前9時頃、天気は曇り、気温は8度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。この日の最高気温は9度であったが、昨日の最高気温は24度に達した。野鳥は、ヒヨドリ、スズメを見つけた。植物は、ニワゼキショウ、イモカタバミ、オッタチカタバミ、ノゲシ、ホトケノザ、ナズナ、タネツケバナ、ハコベ、オランダミミナグサを見つけた。東京で、3月21日サクラの開花宣言がなされ、3月28日には満開となった。

3月30日(土)午前6時頃、天気は曇り(風なし)、気温は9度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、ヒヨドリを見つけた。植物は、ノゲシ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、オッタチカタバミ、イモカタバミ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、ナズナ、タネツケバナ、ナガミヒナゲシ(今季初)、ハコベ、オランダミミナグサ、スズメノカタビラ、ニワゼキショウを見つけた。葛飾区のサクラ(ソメイヨシノ)は、今日満開となった。

今朝(30日)、東京は曇りで花冷えを感じる。暖かい日があったり、寒さがぶり返したりして、私は体調がよくなかった。しかし、23日(土)は『2時間で知る!SDGs~企業や地域が伸びるヒント!SDGsの基礎知識と明日からできること~』の講座(立石図書館主催、横山中小企業診断士講演)を聞いて、時代の変化を実感した。また、24日(日)には、『子どもの居場所を考える~少年事件の背景にある子どもの傷つき~』(NPO法人ハーフタイム主催、岡田常志元弁護士講演)を聞いて、日本の社会がもつ病理を感じた。さらに、「児童170人に虐待疑い~全国緊急調査で35人所在不明」という産経新聞(3月29

日)一面の見出しをみて、持続可能な社会の構築を急ぐ必要性があると思った。今日(30日)の午後6時から、西新井駅前にあるギャラクシティで、『水害にいま備える』という講演会に参加する。これは、足立区・荒川区・葛飾区合同区民公開講座として、区東北部合同区民公開講座実行委員会が主催して企画されたものである。どんな話を聞くことができるのか楽しみである。(3月30日AM)

4月21日(日)午前10時頃、天気は晴れ(風なし)、気温14度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、ヒヨドリ、スズメ、キジバト(1)、ハクセキレイ(2)、オナガ(8)を見つけた。植物は、ハナミズキ、サツキ・ツツジの花を見つけた。オランダミミナグサ、ナガミヒナゲシ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、キュウリグサ、イヌムギ、スズメノカタビラ、オッタチカタバミ、イモカタバミ、ハルジオン、ニワゼキショウを見つけた。カツラ、サクラ、ケヤキ、メタセコイヤの新緑が美しい。

4月28日(日)午後2時頃、天気は晴れ(風なし)、気温18度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ムクドリ、スズメ、オナガ(2)、ユリカモメ(1)、ツバメ(1)を見つけた。昆虫は、アカタテハ(1)、ナミアゲハ(1)、モンシロチョウ(2)、ヤマトシジミ(1)、クロアゲハ(1)を見つけた。植物は、ハナミズキ、サツキ・ツツジの花が咲いていた。スイバ、セイヨウタンポポ、ナガミヒナゲシ、ハルジオン、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、スズメノカタビラ、イヌムギを見つけた。

4月は最高気温が25度を越える夏日の日があり、最低気温が10度を下回る日があつた。ゴールデンウィークの前半は、最高気温が15度~20度くらいで、肌寒い日が続いた。天皇陛下が退位される今日も、雨が降る日となり、最高気温16度の予想が出ている。平成最後の一日、環境教育の本を読むことにしたい(4月30日・譲位の日)

5月2日(木、祝)正午頃、天気は晴れ(風少し有)、気温は22度くらい。亀有5丁目の東部地域病院周辺。野鳥は、スズメ、ヒヨドリ、オナガ(3)を見つけた。昆虫は、アオスジアゲハ(1)を見つけた。植物は、ノゲシ、ハルジオン、セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、カタバミ、ムラサキカタバミ、オッタチカタバミ、イモカタバミ、ナガミヒナゲシ、ヒメコバンソウ、イヌムギ、スズメノカタビラを見つけた。

5月11日(土)午後4時頃、天気は晴れ(風少し有)、気温は25度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、スズメ、ムクドリ、ツバメ(1)を発見した。昆虫は、アカタテハ(1)、キチョウ(1)、ナミアゲハ(1)、ヤマトシジミ

ミ（3）を見つけた。植物は、シロツメクサ、ムラサキツメクサ、イヌムギ、スズメノカタビラ、スイバ、セイヨウタンポポ、ハルジオンを見つけた。

5月26日（日）午前11時頃、天気は晴れ（風なし）、気温は29度くらい。亀有5丁目の亀有公園周辺。野鳥は、スズメを見つけた。昆虫は、ツマグロヒョウモン（1）、アオスジアゲハ（2）を見つけた。植物は、カタバミ、ドクダミ、ネズミムギを見つけた。サツキ、アベリア、クスノキ、カナメモチの花が咲いていた。

5月23日の日本列島は広く高気圧に覆われ、西日本を中心に各地で気温が上昇した。岐阜県いびがわ町や宮崎県串間市で最高30度を越える真夏日となった。この日の東京都心の最高気温は27.0度であった。翌日の24日は31.0度であり、25日は31.9度と真夏日となった。この25日（土）は、多くの小学校で運動会が行われ、私も東京都北区のある小学校の運動会を見学した。開始の午前9時から午後2時までの見学で、大量の汗をかいた。児童席は全ての学年でテントが敷き詰められ、保護者の皆様が児童に水分補給のために冷やした水筒や保冷剤をまいたタオルが用意され、熱中症になる児童はいなかった。26日も朝から25度を超え、最高気温が33度の予想が出ていた。5月26日の産経新聞には、「まだ5月なのにもう猛暑」という見出しで、25日に大分県で35度、全国で460人が病院へ搬送されたことを報じていた。また、同じ日の産経新聞で、政府の温暖化対策長期戦略案が「再エネで『自然と共生』」という見出しで報じられていた。これは、地球温暖化対策の国際的枠組みの「パリ協定」に基づくものであり、政府の最終案が固まり、6月上旬に閣議決定する見通しとなったというものだ。

長期戦略案のポイントとして、①今世紀後半のできるだけ早期に『脱炭素社会』を実現、②2050年までに温室効果ガスを80%削減、③再生エネルギー（太陽光、風力、地熱、水力など）の主力電力化、④再生エネルギーでの「自然環境との共生」、⑤可能な限り原発依存度を削減、⑥火力発電からのCO2排出削減、⑦水素社会の実現、⑧優れた環境技術の国際展開、⑨アジアでの地域循環共生圏の構築支援となっている。

私たちも、SDGsの実践を通じて、温暖化防止に向けて頑張っていきたいと思う。（5月26日）

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	3月～5月の3か月の数値(タンポポや野鳥は数値表示)				

種類	3月	4月	5月	種類	3月	4月	5月
西洋タンポポ	25	1000	90	クロアゲハ	0	0	1
関東タンポポ	0	50	0	シジミ蝶	3	10	5
シロツメ	0	0	多	アゲハ蝶	1	3	6
カントウヨメナ	0	0	多0	モンシロ蝶	1	5	4
つゆ草	0	0	0	アオサギ	2	1	1
ユリカモメ	10	30	0	中サギ	0	0	0
カモ類	300	150	0	コサギ	2	2	1

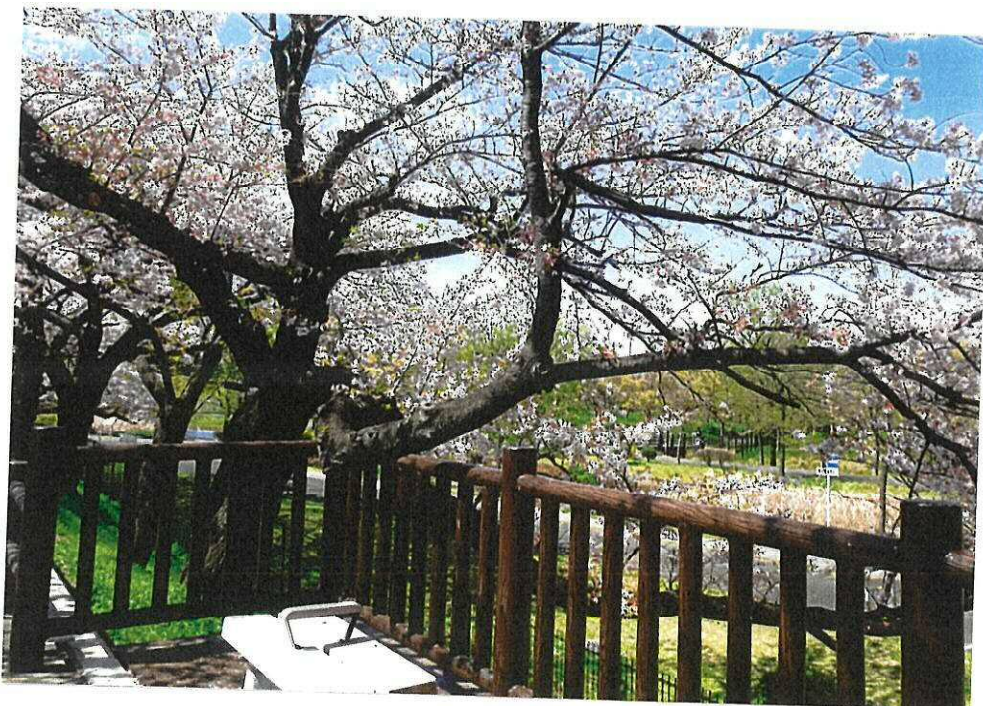
桜土手のはなし

3月は河津さくらが咲いていた。4月、さくら土手は満開でお花見客も多かった。シニアの御夫婦に突然質問をされた。(北区からおいで)

「桜土手にあじさいがびっしり植えられているけど、大きな株になるから、相当手入れしないとね。桜はだいじょうぶなの」

「私も実は心配していますが、あつというまに増やされてしまいました」

さくら土手は何時ごろ作られたのか図書館で調べてみた。葛飾区報に興味ある記事があった。江戸川の金町～小岩の土手に明治38年日露戦争の終結を記念して、2000本の桜が植樹され、都内でも有数の桜の名所となった。昭和27年は花のつきが悪くなったと、地元と観光協会がさらに1000本植樹。三千本の桜土手となりみごとだったらしい。70代後半の地元の人はずっと残っているようだった。江戸川は河川改修工事が進行し、障害となる桜は処分されていた。昭和43年おしまれながらなくなった。水元公園をかこんで回りに桜が植えられ土手のようにになっている。かつてな解釈だが、江戸川土手の三千本の桜の一部が移動しているかな？やっぱりだいじにしたいね



野鳥の話

①3月と4月、カモ類は多くみられたが、5月の観察日(15日)は大橋周囲～小合溜にまったくみられない。釣り人のおじさんに聞くと

「最近はずいぶん少ないな、暖かくなってきたからね」

「コサギもみませんね」「アオサギにかわったか？公園の奥の方にいると思うよ」

嬉しいことは野鳥にエサをあげる人を見かけなくなったことだ。4月の観察日に茨城方面から来られた5人ほどの観光客が「アオサギが目の前にいてびっくりだ。この野鳥は田んぼの奥など人のいないところしかみられないよ」という。

「釣り人にエサをもらっています。珍しいとよくいわれます」

③ つばめ情報

いつもの観察地は4月下旬に巣作りが2箇所みられた。

5月17日1箇所にひな4羽確認、ここは昨年カラスに襲われた所だから駄目かと思った。カラスを日中は見かけないが、朝夕は心配だ。

以前は空家の古い家があったが、新築が増え、つばめの新たな巣作りは望めそうも無い。さて、昨年は巣が二箇所で9羽だった。今年は何羽ふえるだろうか。

5月18日別の巣は3羽 カラスがやって、こらしい

西洋タンポポの雑談

今年の花の咲き具合は、3月が二桁、4月は1000、5月99個
例年ピークはあったが今年は差が大きい。関東タンポポも1箇所、新たな場所を見つけた。更地になっているが土は古いようだ。

西洋タンポポは、ほぼ一年中花が見られるが、関東は春が主なので探しにくいという特徴がある。花の裏を見て観察していると、シニアのカメラを持った男性が話しかけてきた。

「何をしているのですか？」「関東タンポポを確認しています」

「こんなところにもあるの？」「はい、昭和の古い土があると咲いています」

「足立区からきたが、筑波にでもいかないと無いと思っていたよ」

タンポポファンが増えるのは大歓迎なので、観察する花の特徴を実物で案内した。

つばめ情報の追記

- 5/17日夕方親がエサあげ
- 5/18日小さなためが
頭がエサい
- エサは江戸川から運ぶと
見守りのおじさんに見た。
-



自然観察レポート 3・4・5月の巻 調査区5 佐々木定治

眩いばかりのこの季節



3月1日 パンジーとアリッサム水元2丁目



3月7日 スイセン 水元3丁目



3月7日 セリ↑



←水元3丁目→

ソメイヨシノ↑

3月27日 ハナニラ↓

ムベ↓



春は眩い光と共にやってきました。水辺には「セリ」が繁茂し、少し葉先を手にとってみると何と豊かな春の香りなのだろう！スイセンやサクラも咲き、近頃は珍しくなったムベの花も咲きました。微かな春の光を樹木の葉影から受けてハナニラも凛と咲いていました。春3月！今年も確実にやってきました。平成最後の春！

令和の新しい時代を迎えて



4月1日 ツバメ 水元2丁目 自宅



5月27日 ドクダミ 水元3丁目



5月27日 へびイチゴ↑ 水元3丁目



↑ハサミムシ

5月29日 ヒキガエル→

ホウズキ ↓



クリの花↓



我が家に20年前から世代交代しつつ、毎年営巣する家族同様の「ツバメ」が今年は新しい年号を迎えた4月1日に姿を見せてくれました。5月の花「ドクダミ」「へびイチゴ」「ホウズキ」は純白の美しさを表現中です。「クリ」の花は独特の香りを放ち、新緑に少し深みを持たせた細長い葉を支えにし、クリーム色の特色のある個性的な花が満開になっています。観察写真記録をしていると、近くで幼児が、「ハサミムシ」を手に取り、私に記録写真を撮らせてくれました。(※5月29日には調査区外の四ツ木にてヒキガエルを見つけました。)

偉大なるたったひとつの地球が未来永劫に続きますように、令和の時代の初めに願わずにはられません。

季節の写真集 (3月～5月)



「チビシジュウカラ (グリーンプラザ)」
場所：水元公園
名前：高橋 雅子さん



「カワセミ」
3月 場所：区北東部
名前：石鍋 壽一さん



「アリアケスミレ」
4月 場所：区北東部
名前：石鍋 壽一さん



「ヤセウツボ」
5月 場所：区北東部
名前：石鍋 壽一さん



「ツクシ」
3/22 場所：お花茶屋
名前：Rさん



「カントウタンポポ」
4/7 場所：お花茶屋
名前：Rさん



「サボテンマン」
5/23 場所：お花茶屋
名前：Rさん



「河津桜」
3/15 場所：西亀有
名前：RYUさん



「三態揃い踏みっ！」
場所：新小岩
名前：鷺田 秀和さん



「満開」
4/5 場所：西亀有小
名前：RYUさん



「びわ」
5/31 場所：西亀有
名前：RYUさん



「ドクダミ」
5/27 場所：水元3丁目
名前：佐々木 定治さん



「背～高っ！」
場所：新小岩
名前：鷲田 秀和さん



「何者？」
場所：新小岩
名前：鷲田 秀和さん

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-260

調査回数 調査日 地点	262			備 考	
	2019/3/23				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	2 34-54			
2	ア ュ	4 70-102			
3	オ イ カ ワ	8 65-125			
4	ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ	1 421			
5	サ ケ	10 44-75			
6	タイリクバラタナゴ		2 18-31		
7	デ メ モ ロ コ	1 72			
8	ヌ マ チ チ ブ	2 53-78			
9	ボ ラ	88 27-199			
10	マ ル タ	1 112			
11	メ ダ カ		13 21-31		
12	ワ カ サ ギ	1 82			
計		10種類118個体	2種類15個体	0種類0個体	

・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）

・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて12種類133個体の魚類が採集されました。
 ・ なお、新八ワンドは水がほとんどなく、水たまりでカエルの幼生が採れただけでした。
 ・ 曇り、気温7.7℃、水温 本流13.3℃、新八水路10.8℃、新八ワンド11.1℃（15時30分頃測定）

【参加者コメント】

- ・ 厳冬のような寒さで厳しい調査だったが、久しぶりに多数の参加者があり、多種の魚が採れた。
 20-30mm代のボラ未成魚が群で採れた。26節の細かい目合いの投網でも抜け落ちる程の小さい個体が春を告げていた。
 アユとワカサギが同じ投網で採れた。同じようなサイズだったから一緒に泳いでいたのかもしれない。小田原の田んぼの中でもメダカとオイカワが混泳しているのを見たことがある。同じ大きさの子どもは異種の認識が曖昧なのかもしれない。(YK)
- ・ 朝、水路の斜面に、モズの巣立ち雛と親がいて、脅かさないようにと、調査が後回しになりました。初ツバメと、わずかに日の射した午後に、ヒバリの初鳴きを聞きました。
- ・ 久々の参加になりましたが、オイカワを二匹採ることことができてとても嬉しかった。(MO)

・ 水位が低く採集ができなかった新八ワンド。水位が戻ったのに前回より個体数が減った新八水路。水温より低かった気温。(SI)

【今後の調査日】 4月21日（日）5月12日（土）6月22日（土）7月6日（土）8月10日（土）

9月29日（日）

HP（ <http://shigenori1.jimdo.com/> ） 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-261

調査次数 調査日 地点	263			備 考	
	2019/4/21				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	24 42-65			
2	ア ユ	2 98-106			
3	オ イ カ ワ	11 62-134			
4	カ ダ ヤ シ			1 35	特定外来
5	カ マ ツ カ	1 100			
6	ギ ン ブ ナ	2 143-240	1 365		
7	コ イ	1 266			
8	タイリクバラタナゴ		1 28		
9	ツ チ フ キ	1 101			
10	デ メ モ ロ コ	1 59			
11	ニ ゴ イ	4 102-149			
12	ヌ マ チ チ ブ	31 28-72			
13	ハ ス	1 65			
14	ボ ラ	59 31-268			
15	メ ダ カ			2 22-26	
計		12種類138個体	2種類2個体	2種類3個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて15種類143個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り時々晴れ、気温22.5℃、水温 本流21.1℃、新八水路22.8℃、新八ワンド22.6℃（15時頃測定）

【参加者コメント】

- ・ J女子大とE大学の学生さん多数が参加して投網が足りなくなる有り様だった。一昨年は懸命に投網を教わっていた人が、今度は新入生を教える側になっていて、春の成長を感じた。
ここ数年、ニゴイの個体数が増加している気がする。底質の悪化が原因でないことを祈る。一方で久し振りにカマツカが採れた。砂底域もまだ近くに残っているのだろう。前日に訪れた国分寺の湧水も著しく減少や枯渇しており、水害にならない程度の大雨が欲しい。(YK)
- ・ 午前中、カヌーの人達と一緒にになりました。新八付近は車で川にアクセスでき、魚採りだけではなく、様々な人にとって、水辺に親しみやすい場所になっているようです。船着き場から眺めたら、遡上するボラの群れや、水面で採食しているオイカワ(?)が、よく見えました。たまには網を持たずに観察するのも、魚の動きや速度がわかるようになる、気がします。(K1)
- ・ 気候は先月(3月)と比べ、驚くほど暖かくなり、川でも春の訪れを感じました。
魚の種類も前回より増え、1回1回投網を打つのが楽しかったです。よく取れたオイカワやヌマチの他に、小さいボラがわんさか取れてびっくりでした。(AN)
- ・ 1週間ほど前に新八水路で大きな魚影を確認していたが、採られたのは40センチ近いギンブナだった。ノッコミで水路に来て水位が下がった時に本流に逃げそこなったと思われる。もちろん測定後は本流に放した。(SI)

【今後の調査日】5月12日(日) 6月22日(土) 7月6日(土) 8月10日(土) 9月29日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-262

調査回数 調査日 地点		264			備 考
		2019/5/12			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	20 31-62			
2	ウ グ イ	1 92			
3	オ イ カ ワ	12 70-123			
4	ギ ン ブ ナ		15 18-24	144 13-24	
5	コ イ			3 16-23	
6	コ ク チ バ ス	7 153-209			特定外来
7	ス ズ キ	4 45-60			
8	ス ミ ウ キ ゴ リ	1 23			
9	ニ ゴ イ	4 100-125			
10	ヌ マ チ チ ブ	12 43-74			
11	ボ ラ	66 36-54			
12	マ ハ ゼ	1 111			
13	マ ル タ			1 23	
14	(コ イ ssp.)			(8) 15-19	参考
15	(フ ナ ssp.)		(1) 12	(2) 13-15	参考
計		10種類128個体	1種類15個体	3種類148個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて13種類291個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温20.6℃、水温 本流20.5℃、新八水路18.9℃、新八ワンド22.9℃（15時頃測定）

【参加者コメント】

- ・ 新八ワンドで数年振りにギンブナの未成魚多数が採れた。ワンドが産卵場所として利用されたのが嬉しい。しかし同サイズのコイ数個体が混じり、識別にはかなり注意が必要だった。
- ・ 久し振りにウグイが採れた。柴又付近の江戸川ではよく似たマルタの方がずっと多いが、側線上の鱗数が少ない、生臭くない、やや体高が高い、尾柄部に平仮名の『く』の字に似た黒い小さな色素の集まりがある、などの特徴を組み合わせで区別される。(YK)
- ・ 水中の方が暖かく感じるような、やや強めの風のせいか、魚の多くが底層にいて、網の下の方で採れてくるように感じました。ボラがあがってこないなんて(KI)
- ・ 先月から暖かくなり、魚の種類が増え、網に入る魚の数も多くなってきた。私は次に何の魚が入るかなあと楽しんで投げていたが、寒い時の方が網に入った魚に達成感があり、その方が楽しかった—と言う人もいて、びっくりでした！(AN)
- ・ 水路とワンドでメダカもカダヤシも確認できず。こんなことは記憶にない。カダヤシが確認できないことは嬉しいことだがメダカは心配だ。(SI)

【今後の調査日】6月22日（土）7月6日（土）8月10日（土）9月29日（日）

HP（ <http://shigenori1.jimdo.com/> ） 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

環境課からのお知らせ

自然環境係 電話：5654-8237（直通）

お友達や知人の方など

★自然環境レポーターに誘ってみませんか★

【申込期日：7月8日（月）から7月26日（金）まで】



現在葛飾区では、多くの方に自然や生きものに興味を持ってもらうことが大切だと考えています。皆様が参加されているこの「自然環境レポーター制度」は、今まで自然観察をされたことがない方でも気軽に楽しんでいただける内容のものとなっております。今後もこの制度をきっかけに、身近な自然や生きものに興味を持っていただける方々をますます増やしていきたいと区として考えています。

令和元年度の自然環境レポーターの新規加入者募集も始まります。この機会にぜひ、皆様のお友達や知人の方などを自然環境レポーター制度に誘っていただき、一緒に研修会に参加したり、環境レポートを友人・知人と相談しながら作成するなど、レポーター活動が楽しくなるかもしれません。

もし、ご紹介していただけるお友達や知人の方などいらっしゃいましたら、事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。



☆自然環境レポーターの更新の時期になりました☆

自然環境レポーターの皆さんには9月1日から1年の任期で活動していただいております。現在のレポーターの皆さんにおかれましては、引き続き活動していただきますようお願いいたします。


手続き上、更新の意思確認を行いますので、恐れ入りますが、更新を希望されない場合、8月23日（金）までに、自然環境係まで電話にてご連絡をお願いいたします。



☆自然環境レポーター委嘱式・研修会☆

委嘱式と研修会につきましては、9月3日（火）午後7時00分から、「かつしかエコライフプラザ 2階研修室」にて行います。年1回の委嘱式ですので、ご出席をお待ちしております。※詳細は、後日ご案内いたします。

☆カンタンと秋に鳴く虫を聴く会☆

	日 程	会 場	講 師
	8月21日(水)	西亀有せせらぎ公園(西亀有1-10-1)	土岐 秀則先生
	8月29日(木)	北沼公園(奥戸8-17-1)	佐久間 浩先生
	9月20日(金)	青戸平和公園(青戸4-23-1)	佐々木 洋先生

☆新ハ水路で魚類調査を行います☆

日 時 8月10日(土)、9月29日(日)
午前10時～午後4時ごろ

場 所 江戸川河川敷 寅さん記念館下まで直接お越しください。

持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス
詳しくは、HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>)

「水辺のふるさとかつしか」第309号
(葛飾区 自然環境レポーター通信第261号)

令和元年7月5日 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

TEL(3695)1111 内線3522~3

直通電話 (5654)8237

fax (5698)1538



「水辺のふるさとかつしか」の内容について、お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。